



発行所：諏訪実業高等学校同窓会
発行編集者：広報部
印刷：株式会社ウエ印刷

平成25年度定期総会開催

平成25年度同窓会定期総会が5月18日(土)にラコ華乃井ホテルで開催された。

大久保会長は挨拶で最初に、長年同窓会のために尽力された北澤忠義先生が3月2日に86歳で亡くなられたことを述べ、哀悼の意を表わした。また今年には同窓会東京支部が設立60周年になり5月25日に記念総会が行われること、東海支部総会が9月14日に行われることを述べ、大勢の参加を呼びかけた。

Table with financial data for the 25th fiscal year, including income, expenses, and balance sheets.



祝 東京支部創立六十周年

同窓会々長 大久保 一

「ただちに命を守る行動をとって下さい」「特別警報」「今年度は、これまでに聞いたことのない言葉をたびたび耳にしました。諏訪湖の花火大会も昭和24年の開催以来初めて「今までに経験をしたことのない雷雨」のため中止となりました。」

平成25年度役員

- 会長 大久保 一 (43年卒)
副会長 林 清次 (31年卒 文化部)
河内 克朗 (32年卒 広報部)
宮下 孝正 (34年卒 渉外部)
伊藤 勝郎 (34年卒 渉外部)
藤澤 輝雄 (36年卒 文化部)
武井 範好 (36年卒 渉外部)
村田美香子 (37年卒 文化部)
伊藤 久典 (43年卒 広報部)
花岡 廣子 (43年卒 文化部)
新妻比佐志 (53年卒 渉外部)
増澤 義治 (57年卒 渉外部)
監事 岩波 政雄 (41年卒)
三井 安雄 (47年卒)
事務局 阿部 金光 (49年卒 学校)
清水 亜季 (学校)



感動を与える背中

学校長 倉田 吉春

今年、人々に感動を与えた人の中に、楽天の星野監督と東京オリンピック誘致の佐藤真海さんがいる。東北の人々はもちろんのこと、野球を知らない人、スポーツを知らない人にも感動と勇気を与えたことだろう。

「もう最高。東北の子ども達、全国の子ども達、被災者の皆さんに勇気を与えてくれた選手達を褒めてあげて下さい。」

家の道を志してから現在に至った体験などを語って頂き、大変興味深く拝聴いたしました。最後に「ありがとうございました。武藤支部長をはじめ昨年より準備を始め、ご苦労をされた役員の皆様には敬意を表しご挨拶と致します。」

進路状況報告

進路指導主事 福澤 憲一

最近、人口減少社会、少子化、高齢化社会、過疎化、独居老人等の言葉を聞くたびに、漠然とした不安を感じることを禁じ得ません。自分もそろそろ高齢者の入口に立っているからかもしれない。そんな事を考えながら進路指導をしていると、希望や期待感で満たされる時があります。

喜びの受章

関 寛雄さん(昭和30年卒 諏訪市)
牛山 英一さん(昭和35年卒 岡谷市)

秋の叙勲で、関寛雄さん(79)が統計調査の功労で瑞宝単光章を、牛山英一さん(72)が倉庫業振興の功労で旭日双光章を受章されました。

関さんは1975年の国勢調査を振り出しに、各種統計調査員として35年間従事してきた。菓子用の生あん製造業の傍ら、空いた時間を利用して調査票の記入依頼と回収に諏訪市内全域を回った。「期日は必ず守る」がモットー。「几帳面な性格が地道な作業に生きた」と振り返る。最多の30回を数える工業統計調査は、年末の稼業の繁忙期と重なり、苦勞が増した。納品用の製造を早朝までに済ませ、日中に雪道を歩みながら1軒ずつ事業所を訪ね歩いた。夜を徹して整理作業を続けることもあった。これまでも統計調査に功績があったとして、国から3回、県から1回表彰された。今回の受章について、「お世話になり、協力してもらった皆様に礼を言いたい」と、心から感謝の意を表された。

生徒諸君と進路について話をしている時だ。今年も百人に迫る生徒がこの地域で職を見つけて旅立って行く。百人である。こんなにも多くの生徒を地域に送り出せる瞬間に立合えること。それは慶びである。地域を担う有能な人材。若い労働力。これからの日本に必要なものが、全部ここにある。卒業生が地域の経済を支え、先輩方が築いてきた名声を引継ぎ、地域の文化や伝統を継承する。本校の使命はまさにそこにある。地域から若者が減少して行く時代を迎え、本校の重要性や評価が一段と増してくる、そういう時代が必ずやってくる。

Table showing the status of students' career paths for the 25th fiscal year, categorized by course and gender.

社長を務める諏訪倉庫に入社。繭、葉タバコ、精密機械、食品や飲料水へと取扱商品が変わる中、県内施設の拡充、関東圏への進出といった重要案件を成功に導いた。12年には県倉庫協会の会長に就任。災害に強い物流の構築に取り組んでいる。茅野市湖東出身。高校卒業後に入社し、総務、庶務、経理畑を歩んだ。経営陣に加わった後に組んだ松本支店開設、前橋支店開設はその後の会社の収益向上に大きく貢献している。県倉庫協会では14年間、理事兼事務局長として実務を取り仕切った。現在取り組む災害に強い物流の構築は、東日本大震災の教訓として緊急支援物資の受け入れ施設の不足などを指摘。災害発生から72時間を重要とし、対応策の検討を重ねている。受章について「大変な名誉。多くの皆様から支えられたおかげであり、心から感謝したい」と喜びを語った。また、高校時代の思い出として「三年間図書委員を務めたことと文化祭で良寛の劇をやったこと」が印象に残っていると話された。